

記者資料提供（令和3年5月14日）

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 山本のぞみ、田中宏明
TEL：078-306-0719 FAX：078-306-0752



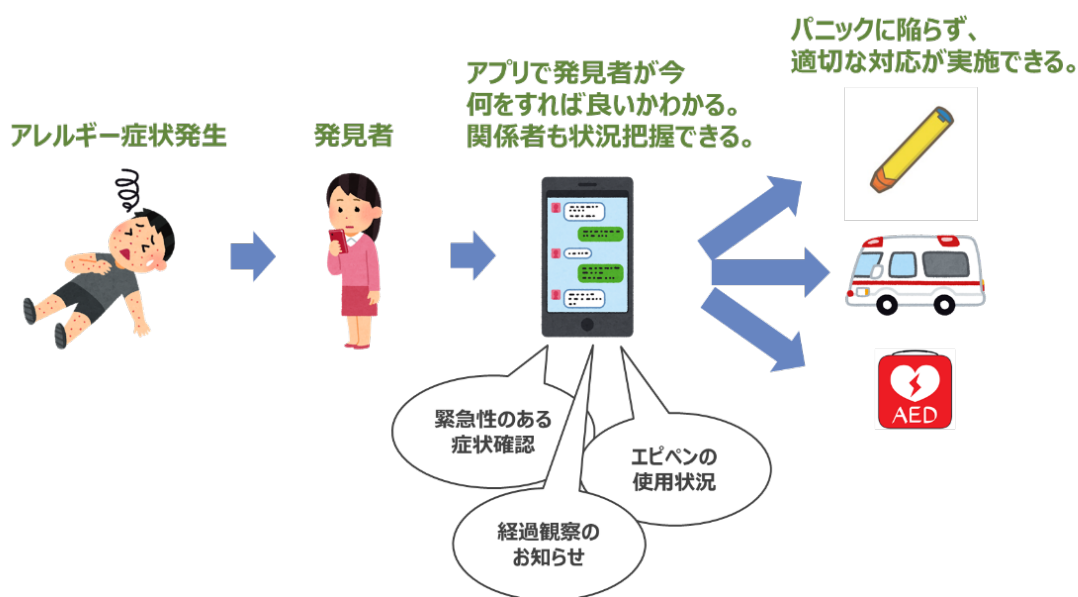
食物アレルギー発生時の対処をスマホで確認できる 「アナフィラキシー対応支援ツール」のトライアル利用開始

神戸医療産業都市推進機構は、株式会社 NTT データと神戸市立医療センター中央市民病院の間で研究開発が進められていた食物アレルギー発生時における現場対応を補助する仕組み作りを支援してきました。この度、食物アレルギー発生時に適切な対応をスマートフォンで補助する「アナフィラキシー対応支援ツール」のプロトタイプバージョンが完成し、トライアルの利用が令和3年4月から開始されましたので、お知らせします。

■ ポイント

- ・ 主に小学校をターゲットに、食物アレルギー症状を発見した際の適切な現場対応を普段親しんでいるスマートフォンのアプリケーションで補助
- ・ 発見者の手元で必要な行動をシンプルかつ的確に確認し、関係者間で情報連携できることで、現場のパニックを防ぎ、重篤化の回避につなげることが目的
- ・ 必要な対処行動と判断基準は既存の各種ガイドラインに則り、神戸市立医療センター中央市民病院の小児科の岡藤郁夫医長が監修
- ・ システム化にあたり NTT データの研究開発部門と共同研究
- ・ 神戸医療産業都市推進機構クラスター推進センターが、開発に対する助言を実施
- ・ プロトタイプバージョンにて、医療関係者／教育関係者でのトライアル利用を開始

■ アナフィラキシー対応支援ツールの概要



■ 背景

食物アレルギー症状が発生した際、特に小学校などにおいては発見者が適切な対応を実施できることが重要です。しかし、場慣れしていない場合はスムーズに対応することが難しく、訓練内容を完全に覚えていられるとも限りません。

■ 活動概要と成果

昨今、スマートフォンが社会インフラとして普及してきたことに着目し、スマートフォンを用いて、食物アレルギー症状が発生した際、「何をすれば良いか？」を手元で簡単に確認できる仕組みを用意しました。

監修を担当した岡藤郁夫先生は、「普段慣れ親しんだスマホアプリによるシンプルな仕組みができあがりました。小学校をはじめとした教育現場などにおいて、食物アレルギー症状に居合わせた際、だれでも安心して適切な対応できることが期待されます。」と評価しています。

■ 期待される効果

- ① 現場のパニックを防ぐことができ、適切なタイミングでのエピペン使用を促すことができるため、現場における安全が確保しやすくなる。
- ② 現場の対応車の行動履歴、例えば「救急車を呼んだ」「エピペンを打った」など、を簡単に記録に残せ、関係者への情報共有やレポートが効率化できる。

■ 今後の予定

神戸市内の医療関係者／教育関係者によるトライアルを通じ、プロトタイプバージョンの改善を重ねることで、保育園や幼稚園、小学校などの教育現場での導入を目指します。また、スマートフォンを持っていない状況下でも支援が可能となるようなバリエーションも検討します。

■ 問い合わせ先

株式会社 NTT データ 技術開発本部 cai@kits.nttdata.co.jp

※お問い合わせはメールのみで対応しております。